

③ 高市皇子と九州王朝

壬申の乱指揮は高市皇子

【創作・潤色された『書紀』の戦いであることを示す。壬申の乱】
①壬申の乱の「期間」は集約されている。わずかに数日て数方の兵は動員できない。実際は長期の戦いだった。

ア 6月22日吉野で美濃国に兵を起すよう指示。
イ 6月24日婦女子含め40人ほめて吉野出発。
ウ 6月26日美濃国の兵3000人が不破道を塞ぐことに成功。
エ 6月27日不破関に入る。尾張の兵2万人参戦。
②大和・近江周辺のヤマトの王家の跡目争いはなく九州から東国を巻き込んだ「倭国全体」の覇権を争った。

【主語を入れ替え天武を英雄に】
命・遣(の)字を付加し主語を天皇に。
高市皇子、不破に高市皇子は美濃の軍3千で不破道を塞ぐ。山背部小田・安斗道阿加布を遣し東海軍をおこす。又権部臣百瀬・土師連馬手を遣し東山軍をおこす。
『書紀』記事を素直に読めば、これらは高市皇子の指揮によることがわかる。

【壬申の乱の「論功行賞」を行ったのは高市皇子】
『書紀』天武元年(672)8月甲申(分日)、高市皇子に命じて近江の群臣の犯(あやまつ)状を宣らしむ。則ち重罪八人を極刑に処す。仍ち右大臣大臣連金を淺井田根に斬る。是の日に、左大臣蘇我臣兄・大納言巨勢臣比等及子孫、并せて中臣連金・子蘇我臣安志、悉く配流す。以余は悉く赦す。丙戌(26日)、諸の勳功有る者に恩を勅し(龍賞)ちよし。高市皇子命を生じませし。
『持統10年(696)・大化2年(646)』
『胸形君徳善女尼子娘を納す。高市皇子命を生じませし。』
『天武10年(679)』
『天武2年(672)』
『天武10年(681)』



金銅製頭椎太刀(260mm復元品)
伊勢王 奉
宣葬儀 ↓命津
大肆伊勢王 奉
宣葬儀
伊勢王、
遣：土匠者等
遺行天下而限分諸國之境。
遣諸王五位伊勢王、土匠者等
伊勢王、遣：定諸國界。
遣伊勢王等、定諸國界。
高市皇子(後皇子尊)(654年?) ~ 696年7月10日。
天武の長子とされる。母は筑紫宗形君徳善の娘、尼子娘。皇子の長屋王の居宅から「長屋親王高麗大寶十編」木簡が出土。親王(高市皇子)の子の称号なので「高市皇子天皇即位説」もある。

④ 高市皇子と王朝交代

九州からヤマト天皇家へ

【壬申中期には持統の子草壁皇子がNo.1とされる】
①天武8年(679)5月の天武・持統と6人の皇子(草壁皇子、大津皇子、高市皇子、川島皇子、忍壁皇子、志貴皇子)による「吉野の盟約」で持統の子草壁皇子が筆頭と書かれている高市皇子はNo.3か、【『書紀』の名分で実態は不明】。

【持統称制と草壁の即位断念は高市皇子の存在が原因】
天武崩御は天武元年9月9日。朱鳥改元は7月20日天武崩御による改元でない。
朱鳥元年是歳「蛇と天と相交ひ、俄に俱(とも)に死す」とあり天武と九州王朝の白鳳期の天武も同様に崩御したことを推測させる。
九州王朝の新天地に即位し、ヤマトの天皇家の天武の後継候補に九州王朝の系列の高市皇子がいる中で、彼を差し置き草壁を即位させれば、倭国(九州王朝)は高市皇子を推して「壬申の乱」同様事態がおこる懸念がある。という「後継天皇は未定」という形を保つために持統が「称制即位」したのでないか、すなわち倭国の覇権をめぐる争いの激化を示すもの。

【不可解な天武後期から持統初期の草壁・大津・高市と持統初期の草壁】
天武後期の天武10年(681)に、草壁皇子が太子となり、大津皇子がNo.2。
天武10年(681)2月甲子(25日)、草壁皇子を立て皇太子とす。因りて万機を攝(ふる)さねおさめし。
(若波注)『草壁皇子には』
『実際の政治の実権はほとんど委ねられていなかったらしい』
大津皇子が天武崩御直後の謀反事件で誅殺され、高市皇子は皇子がおり、草壁が即位すれば

【持統称制の実態】
通説でも草壁が即位しなかつたのは皇位争いに巻き込まれるのを防いだという説があるが、ヤマトの王家内の皇位争いなら大津皇子を誅殺した時点で懸念は薄れる。
しかし、草壁の異母兄で、かつ九州王朝の宗族の血統の高市皇子がおり、草壁が即位すれば

【古武高木遺跡群(福岡市西區)から、我が国で最も早く(B.C.2世紀)に「三種の神器(鏡・玉・剣)」が出土する。
『古事記』瀬田命の降臨
『後漢書』に「倭奴國の周(周公)大廟に納む」とある。
『禮記』に「昧(マイ)ノ舞、東夷の樂なり。」とある。
『古事記』大廟に納むとある。
『後漢書』に「倭奴國の周(周公)大廟に納む」とある。
『禮記』に「昧(マイ)ノ舞、東夷の樂なり。』とある。

【倭人の登場】
紀元前11~10世紀倭人が周王朝へ朝鮮の箕子を仲介し朝貢。寧草を獻じ「昧(舞)」を奉納した。
『論衡』に「周の時、天下太平にして、倭人來たりて寧草を獻す。玄菟樂浪、武帝の時、置く。皆朝鮮、穢貉、句麗の蛮夷。殷の道衰え、箕子去りて朝鮮に之く、其の民に教ふるに礼義を以てし、田畜織作せしむ」とある。つまり、紀元前10世紀とあり、北部九州の稲作地帯

【九州王朝の始まり】
紀元前2~3世紀頃朝鮮海峡を拠点とする青銅の武器を携えた勢力が、北部九州の稲作地帯

【九州王朝の始まり】
紀元前2~3世紀頃朝鮮海峡を拠点とする青銅の武器を携えた勢力が、北部九州の稲作地帯

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。

【天武2年の「皇太子奏請の真実】
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。
『書紀』天武2年なら、上皇として権力を持つ皇極(後に重祚して斉明の事績を孝徳が否定した)になる。



宮地嶽古墳

◇倭国(九州王朝)の始まりから滅亡までの略史

九州王朝なる言葉の説明も正木氏の言葉を引用し要約・解説してあげる。
①倭人の登場
紀元前11~10世紀倭人が周王朝へ朝鮮の箕子を仲介し朝貢。寧草を獻じ「昧(舞)」を奉納した。
『論衡』に「周の時、天下太平にして、倭人來たりて寧草を獻す。玄菟樂浪、武帝の時、置く。皆朝鮮、穢貉、句麗の蛮夷。殷の道衰え、箕子去りて朝鮮に之く、其の民に教ふるに礼義を以てし、田畜織作せしむ」とある。つまり、紀元前10世紀とあり、北部九州の稲作地帯

九州王朝なる言葉の説明も正木氏の言葉を引用し要約・解説してあげる。
①倭人の登場
紀元前11~10世紀倭人が周王朝へ朝鮮の箕子を仲介し朝貢。寧草を獻じ「昧(舞)」を奉納した。
『論衡』に「周の時、天下太平にして、倭人來たりて寧草を獻す。玄菟樂浪、武帝の時、置く。皆朝鮮、穢貉、句麗の蛮夷。殷の道衰え、箕子去りて朝鮮に之く、其の民に教ふるに礼義を以てし、田畜織作せしむ」とある。つまり、紀元前10世紀とあり、北部九州の稲作地帯

◇美証される「箕子」の東夷教化

【紀元前10世紀ごろ箕子が来たという。儀式は周東夷を教化し「田畜織作せしむ。」
箕子(B.C.10~11世紀)は殷の29代帝(紂)の子で、30代(武王)の叔父。箕族は殷の東北「箕の地域」に奉じられた為箕子と呼ばれる。暴君化した紂王を諫めるも取入れられず、身の危険を感じ発狂を装い幽閉された。取捨を決して周の武王に渡り、周に仕えようとする。周に仕えようとする。周に仕えようとする。

【紀元前10世紀ごろ箕子が来たという。儀式は周東夷を教化し「田畜織作せしむ。」
箕子(B.C.10~11世紀)は殷の29代帝(紂)の子で、30代(武王)の叔父。箕族は殷の東北「箕の地域」に奉じられた為箕子と呼ばれる。暴君化した紂王を諫めるも取入れられず、身の危険を感じ発狂を装い幽閉された。取捨を決して周の武王に渡り、周に仕えようとする。周に仕えようとする。周に仕えようとする。

◇西周が成立するところ(紀元前11世紀)の時代背景を西遼河流域に住んでいたキプ・アノ農耕民と判明。その後、数千年かけて北方や東方のアムール地方や沿海州、南方の中國・遼東半島や朝鮮半島など周辺に移住し、農耕の普及とともに言語も拡散した。朝鮮半島では農作物にイネとムギも加わった。日本列島へは約3千年前、「日瑠」(にちりゅう)語族として、水田稲作農耕を伴って朝鮮半島から九州北部に到達したと結論づけられた。西遼河流域は「箕の地(箕族の故地)」で、箕子が殷の遺臣を率いて半島に來た必然性を示すもの。

【人類学・言語学が実証する箕子の東夷教化】
日本語の原郷は「中国東北部の農耕民」と国際研究チームが発表(毎日新聞2021年11月13日付)。日本語の原郷は「中国東北部の農耕民」と国際研究チームが発表(毎日新聞2021年11月13日付)。日本語の原郷は「中国東北部の農耕民」と国際研究チームが発表(毎日新聞2021年11月13日付)。

【人類学・言語学が実証する箕子の東夷教化】
日本語の原郷は「中国東北部の農耕民」と国際研究チームが発表(毎日新聞2021年11月13日付)。日本語の原郷は「中国東北部の農耕民」と国際研究チームが発表(毎日新聞2021年11月13日付)。